

鉄炮鍛冶屋敷ワークショップ実施（概要）

【実施概要】

令和6年3月3日に開館予定である堺市指定有形文化財井上関右衛門家住宅（通称「鉄炮鍛冶屋敷」）について、障害者も含め多くの方に文化的体験を提供できる場とするため、施設見学や銃身磨き体験を通じて障害当事者団体と意見交換を行った。

実施日時：令和5年11月10日（金）13時30分～15時30分

実施場所：堺市指定有形文化財井上関右衛門家住宅（通称「鉄炮鍛冶屋敷」）
（堺市堺区北旅籠町西1丁3-22）

参加者：障害当事者8名（身体2名、視覚2名、聴覚2名、知的2名）、介助者、手話通訳者、要約筆記者8名、学識者1名（堺市バリアフリー化検討委員会副委員長・東北福祉大学 石塚裕子教授）、鉄炮鍛冶屋敷 史談会4名、堺市（文化財課、地域共生推進課）、指定管理者

【主な意見】

（1）見学の感想

○建物について

- ・懐かしさを感じた。土間や中庭、茶の間など日本家屋を広く知ってもらうよい機会になる。
- ・柱などに触れられたのは、非常によかった。触ってよい箇所（柱や土壁）や危険な箇所、靴を脱ぐ必要がある場所、天井が低く頭上に気を付けるべき場所を明確にしておく必要がある。パンフレットにも記載が必要ではないか。点字での記載も必要。
- ・鍛冶場前にあるくみ上げ式ポンプについては、触っていいのものなのか注意書きが必要。また、飲用不可との記載が必要。

○トイレについて

- ・多機能トイレは、リクライニング型の車いすでも利用することができてよかった。
- ・トイレまでの経路に石畳や段差が多く通行に不安がある。
- ・トイレの場所を示すサインは、位置や大きさ、色、数など注意が必要。

○無料ゾーンにおける映像について

- ・内容は非常に分かり易かった。
- ・モニターの設置位置が車いすからも見やすくよい。
- ・「この映像は約〇分です」といった表示があればよい。
- ・キャプション等に漢字が多く使用されていた。子ども等にも伝わるようやさしい日本語を用いることも検討してもらいたい。

○情報保障について

- ・点字の資料、パンフレットがないため、検討してもらいたい。館内マップ（間取り）や部屋の名前が分かるようにするとよいのではないかな。

- ・QRコードでの対応の場合、どこにQRコードがあるのかが分からないため、工夫が必要。
- ・音声ガイドがあれば理解が深まる。

(2) ワークショップの感想（体験イベントに際して気をつけてほしいこと）

○説明について

- ・文化財課が今回のために作成した資料が非常に分かり易かった。今後のパンフレット作成にも活かしてもらいたい。
- ・史談会の方・文化財課の説明が分かりやすかった。

○銃身磨き体験について

- ・今回のように史談会の方とコミュニケーションをとりながら体験をすると理解が深まる。
- ・初めて火縄銃の銃身に触れたが、重く冷たかった。今後もさまざまな体験ができるのではないかと期待できた。
- ・見るだけでなく、錆や錆落としの油の匂いなど、五感を用いて体験することは非常によい。

(3) 施設の魅力を高める取組への提案

○鍛冶場について

- ・鍛冶体験の設備については、映像で示すもののほか、温度変化や風力の様子などを五感で感じられるような工夫があるとよいのではないか。
- ・火縄銃の全体の形が分からないので、イメージを持つためにも模型があるとよいのではないか。各部品に名称が記載され（点字も）、自身で組み立てる体験ができるとより理解できると感じた。
- ・銃声や火薬の匂いが分かるような仕掛けがあると関心をひくのではないか。
- ・鍛冶場の整備はこれからとのことだが、モニターで映像を見る場合は、いすがあるとよい。

○屋敷について

- ・車いすで和室に上がれないのは残念であった。
- ・和室の空間を活かせるような工夫が必要。国宝の建物であっても昇降機を設置していたり、畳の材質を耐久性のあるものにしていたりなど工夫している。土間から眺める景色と和室に上がって見える光景は全く異なる。今後の課題としてもらいたい。
- ・施設の間取りなど全体像を触ってイメージできるような模型があるとよい。
- ・座敷に上がらなくても見学できる展示物もあるとよい。
- ・お土産物やグッズには、触って形が分かるものがあるとよい。

【石塚先生からの講評】

- 施設の在り方や文化について考えるよい機会であった。
- 当事者の皆様からいただいた意見については、施設の開館に向けて活かしてもらいたい。
- 個人の感想としては、史談会の方々に協力いただけたことがよかった。銃身磨き体験を定期開催するなどして継続的にご協力いただけるとよいのではないか。

- 本日は障害のある方にご参加いただいたが、出された意見は特別なことではなく、どのような方にとっても学びや楽しみを得てもらうためには必要なこと。
- このような機会を今後も続けていただき、よりよい施設となることをめざしてスパイラルアップを図ってもらいたい。

【バリアフリーワークショップ後の対応方針】

- 触っていい場所・危険な場所、トイレ等に関してパンフレットや館内等への明示を行う。
- 鍛冶場への椅子の設置、灯籠の設置位置の変更による通行空間の確保。
- 指定管理者雇用のスタッフが合理的配慮を認識し、来館者対応を行うため、障害理解と合理的配慮に関する研修の実施。
- 銃身磨き体験を定期開催し、継続的に体験の場を設ける。
- 車いす利用者の見学は今後の検討課題。文化財施設としての特異性も踏まえ、当面は人的介助でサポートを行う。また、これ以外の検討課題についても、すべての人が楽しめ、文化的体験ができるよりよい施設をめざして、スパイラルアップを図る。

(以上)

【写真①】



【写真②】



【写真③】



【写真④】



【写真⑤】



【写真⑥】

